

平成30年度
相双地域救急医療対策協議会次第

日 時 平成30年11月8日(木) 16:00～17:30
場 所 相双保健福祉事務所 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

- (1) 相馬・双葉地域の救急搬送状況について
- (2) ふたば医療センター附属病院の状況について
- (3) 多目的医療用ヘリの運行について
- (4) その他

4 その他

5 閉 会

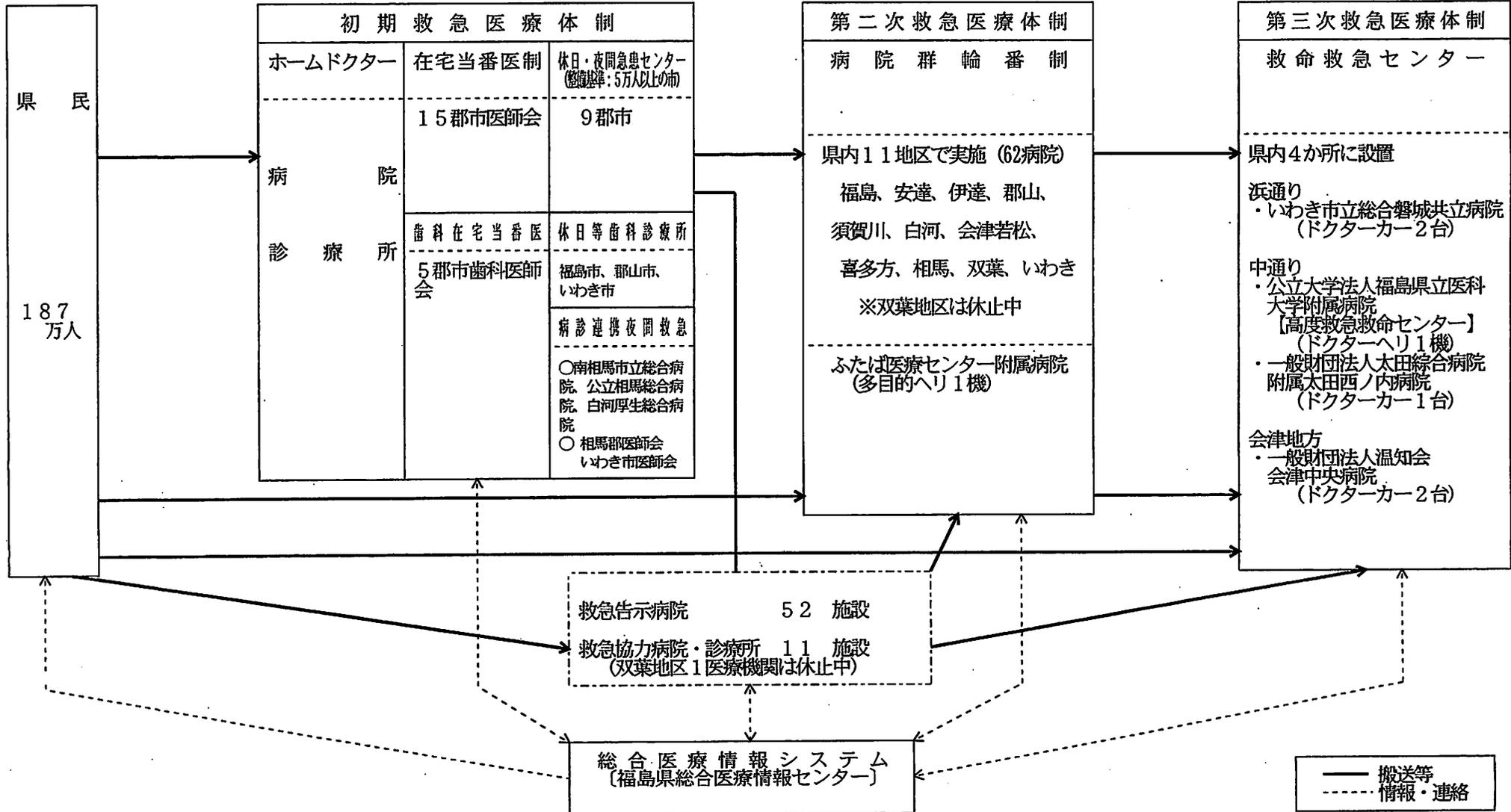
【配付資料】

- 1 次第、委員名簿、出席者名簿、席順表
- 2 資料1 福島県救急医療体系図
- 資料2-1 平成29年救急業務実施状況(相馬地方広域消防本部)
- 資料2-2 平成29年救急統計資料(相馬地方広域消防本部)
- 資料3 双葉消防本部救急活動概要(双葉地方広域市町村圏組合消防本部)
- 資料4 平成30年度相馬地方病院群輪番制協議会事業報告
- 資料5 ふたば医療センター附属病院患者報告
- 資料6 福島県多目的医療用ヘリの紹介
- 資料7 救急活動プロトコールワーキンググループの検討関係
(福島県消防保安課の資料)

福島県救急医療体系図

資料 1

(平成30年4月1日現在)



相双地域救急医療対策協議会委員名簿

平成30年度

	所 属	職 名	氏 名	備 考
1	相馬郡医師会	会 長	船 橋 裕 司	
2	双葉郡医師会	会 長	堀 川 章 仁	
3	相馬歯科医師会	会 長	菅 野 明 彦	
4	双葉郡歯科医師会	会 長	泉 田 一 藏	
5	相馬地方広域市町村圏組合	事務局長	橋 川 茂 男	
6	双葉地方広域市町村圏組合	事務局長	秋 元 正 國	
7	相馬地方広域消防本部	消防長	小 谷 津 芳 秀	
8	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	消防長	大 和 田 仁	
9	相馬地方病院群輪番制協議会	会 長	標 葉 隆 三 郎	
10	双葉地方病院群輪番制協議会	会 長	重 富 秀 一	
11	公立相馬総合病院	院 長	金 田 寛 之	
12	南相馬市立総合病院	院 長	及 川 友 好	
13	ふたば医療センター附属病院	院 長	田 勢 長 一 郎	
14	南相馬警察署	署 長	松 崎 幸 夫	
15	双葉警察署	署 長	保 科 直 樹	
16	福島県相双地方振興局	県民環境部長	碓 川 浩	
17	福島県相双保健福祉事務所	所 長	新 妻 勝 幸	会長

※敬称省略

事務局等

1	相馬地方広域消防本部	消防係長	志 賀 毅	
2	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	消防課長	林 浩	
3	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	課長補佐兼消防係長	半 澤 和 夫	
4	消防保安課	主任主査	高 木 健 吾	
5	地域医療課	主 事	遠 藤 寛 幸	
6	相双保健福祉事務所	副所長	佐 々 木 昭 彦	
7		生活衛生部長	石 川 雅 人	
8		生活衛生部副部長	海 老 名 裕 二	
9		医療薬事課長	外 島 伸 泰	
10		専門薬剤技師	尾 形 眞 一	
11		主任薬剤技師	後 藤 香	
12		主任薬剤技師	大 槻 光 浩	

相双地域救急医療対策協議会委員名簿

平成30年度

	所 属	職 名	氏 名	備 考	出欠	代理者職名	代理出席者氏名
1	相馬郡医師会	会 長	船 橋 裕 司		出席		
2	双葉郡医師会	会 長	堀 川 章 仁		欠席		
3	相馬歯科医師会	会 長	菅 野 明 彦		代理	副会長	加藤 悟郎
4	双葉郡歯科医師会	会 長	泉 田 一 蔵		欠席		
5	相馬地方広域市町村圏組合	事務局長	橋 川 茂 男		欠席		
6	双葉地方広域市町村圏組合	事務局長	秋 元 正 園		代理	保健福祉課長	松 本 健
7	相馬地方広域消防本部	消防長	小 谷 津 芳 秀		代理	警防課長	須 田 幸 正
8	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	消防長	大 和 田 仁		出席		
9	相馬地方病院群輪番制協議会	会 長	標 葉 隆 三 郎		出席		
10	双葉地方病院群輪番制協議会	会 長	重 宮 秀 一		出席		
11	公立相馬総合病院	院 長	金 田 寛 之		出席		
12	南相馬市立総合病院	院 長	及 川 友 好	30分遅れ	出席		
13	ふたば医療センター附属病院	院長	田 勢 長 一 郎		出席	事務長 同行	武 藤 雅 俊
14	南相馬警察署	署 長	松 崎 幸 夫		出席	生活安全第一係長	橋 本 直 弥
15	双葉警察署	署 長	保 科 直 樹		代理	生活安全第一係長	坂 本 俊 貴
16	福島県相双地方振興局	県民環境部長	萩 川 浩		出席		
17	福島県相双保健福祉事務所	所 長	新 斐 勝 幸	会長	出席		

※敬称省略

事務局等

1	相馬地方広域消防本部	消防係長	志 賀 毅
2	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	消防課長	林 浩
3	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	課長補佐兼消防係長	半 澤 和 夫
4	消防保安課	主任主査	高 木 健 吾
5	地域医療課	主事	遠 藤 寛 幸
6	相双保健福祉事務所	副所長	佐 々 木 昭 彦
7		生活衛生部長	石 川 雅 人
8		生活衛生部副部長	海 老 名 裕 二
9		医療薬事課長	外 島 伸 泰
10		専門薬剤技師	尾 形 真 一
11		主任薬剤技師	後 藤 香
12		主任薬剤技師	大 槻 光 浩

平成 29 年

救急業務実施状況

相馬地方広域消防本部

救急業務実施状況

相馬地方広域消防本部

1 救急出動件数及び搬送人員

平成 29 年中における救急出動件数は、前年より42件減少し4,558件で4,144人を搬送しました。これは、相馬地方の救急隊が1日平均12.4件出動し、管内住民26人に1人が搬送されたこととなります。

過去最高となった平成28年の件数からわずかに減少しましたが、高齢化社会を背景に今後も増加することが予想されます。

当消防本部における過去5年間の救急出動件数及び搬送人員の状況は下表のとおりです。

(1) 過去5年間の救急出動件数及び搬送人員

項目 年別	出 動 件 数		搬 送 人 員	
	件 数	前 年 比	人 数	前 年 比
平成25年	3,811	+0.4%	3,478	-1.1%
平成26年	4,317	+13.2%	3,819	+9.8%
平成27年	4,513	+4.5%	4,038	+5.7%
平成28年	4,600	+1.9%	4,097	+1.4%
平成29年	4,558	-0.9%	4,144	+1.1%

12.4/日

(2) 事故種別救急出動件数（平成29年中）

※ 救急出動件数を事故種別毎にみると、「急病」が65.4%と全体の約2/3を占め、次いで「一般負傷」「転院搬送」「交通事故」の順となっております。

事 故 種 別	出 動 件 数	構 成 比
急 病	2,983件	65.4%
一 般 負 傷	572件	12.5%
交 通 事 故	356件	7.8%
自 然 災 害	0件	0.0%
自 損 行 為	53件	1.2%
労 働 災 害	51件	1.1%
運 動 競 技	32件	0.7%
加 害	13件	0.3%
水 難	2件	0.0%
火 災	3件	0.1%
その他（転院搬送）	485件	10.6%
そ の 他	8件	0.2%
合 計	4,558件	100.0%

(3) 曜日別救急搬送人員

※ 平成29年は水曜日、月曜日、金曜日の順に多い傾向となりました。

年 曜日	平成27年		平成28年		平成29年		平均	
	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
月曜日	603	14.9	645	15.7	627	15.1	625	15.3
火曜日	565	14.0	595	14.5	572	13.8	577	14.1
水曜日	619	15.3	566	13.8	629	15.2	605	14.8
木曜日	563	13.9	560	13.7	557	13.4	560	13.7
金曜日	602	14.9	588	14.4	623	15.0	604	14.8
土曜日	580	14.4	602	14.7	575	13.9	586	14.3
日曜日	506	12.5	541	13.2	561	13.5	536	13.1

2 救急車の平均到着時間

※当消防本部の現場到着及び病院到着までの時間は、全国に比べ延長傾向にあります。

これは救急出動の増加により、現場直近署所以外からの出動が多くなっていることや、搬送先医療機関の決定まで時間を要し、現場滞在時間が延長していることが考えられます。

区別	時間	現場までの到着時間	病院到着までの時間
	全 国		平均8.6分 (H27年)
		平均8.5分 (H28年)	平均39.0分 (H28年)
相 馬 広 域		平均9.1分 (H27年)	平均43.1分 (H27年)
		平均9.0分 (H28年)	平均43.6分 (H28年)

3 ヘリコプターによる救急搬送状況

(1) 福島県防災ヘリは、平成13年から運行が開始され、これまでの救急搬送状況は下表のとおりです。(平成23年中の件数に震災関連の搬送は含まない)

年 別	平成13 ~25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	合 計
搬 送 数	47	0	0	0	0	47件

(2) 福島県ドクターヘリは平成20年1月28日(東北初、全国で13番目の導入)から運行が開始され、これまでの救急搬送の状況は下表のとおりです。(フライトDrの判断により管内医療機関へ搬送となった事案を含む)

年 別	平成20年 ~26年	平成27年	平成28年	平成29年	合 計
搬 送 数	239	77	49	39	404件

※ 隣県Drヘリ(宮城・山形)による搬送含む。

4 常磐自動車道救急出動状況（平成24年4月8日開通以降）

当地方における高速道路交通網の発達は平成24年4月8日に一部供用開始後、平成27年3月1日には常磐自動車道が全線開通となりました。

高速道路上の事故等には、救急車のみでの対応は困難なことから、出動車両や出動人員を増やして対応しています。

開通後の救急出動件数等は下表のとおりです。

発生年	件数	搬送人員	出動台数（延べ）	出動人員（延べ）	備考
平成24年	0件	0人			
平成25年	1件	1人	5台（1台）	12名	
平成26年	3件	5人	14台（5台）	41名	
平成27年	14件	11人	38台（16台）	120名	
平成28年	11件	11人	22台（12台）	69名	
平成29年	14件	21人	44台（22台）	134名	

出動台数中（ ）は救急車台数。

5 救急隊員の資格状況及び車両の状況（平成30年9月1日現在）

(1) 職員148名のうち、救急隊員資格者は132名（うち救急救命士39名）、救急無資格者は16名で、毎年計画的に救急隊員の養成を行っています。

(2) 全国5,140隊（平成29年）の救急隊のうち、救急救命士常時運用隊は5,082隊で運用率は98.9%を占めています。

当本部の救急車配備状況は、下表のとおりです。

高規格救急車 （予備車両を含む）	2B型救急車	合計	高規格救急車率
9台	0台	9台	100.0%

（救命士常時運用隊は相馬・南相馬・小高・鹿島・新地・飯館6隊で75%）

※ 救急救命士常時運用隊とは、救急車に必ず1名以上の救急救命士が搭乗し救急活動を行っている救急隊のことです。

6 救急救命士の救命処置資格及び配置状況

平成3年8月15日救急救命士法施行後、当本部では、平成10年度に1台目の高規格救急車を原町消防署（現在は南相馬消防署）に配備し、救急救命士隊を運用開始しました。

その後、医師の指示なしに行える除細動が平成15年4月1日、気管挿管が平成16年7月1日、薬剤投与（強心剤＝アドレナリンのみ）が平成18年4月1日から処置できるようになりました。

また平成26年4月1日からは血糖値の測定、ブドウ糖投与、心肺停止前の輸液処置の拡大が図られました。

当消防本部では、毎年計画的に認定救命士の養成を行っています。

平成30年9月1日現在の資格別救急救命士配置状況は次項表の通りです。

救急救命士の救命処置資格及び配置状況表

所 属	人 数	薬剤・気管	気管のみ	薬剤のみ	血糖・ブドウ糖	認定なし
本 部	5	2			1	3
相 馬	8	3		1	5	
南相馬	9	2			5	2
小 高	4	1			4	
鹿 島	4	1			2	1
新 地	4	1			4	
飯 館	5	1		3	1	
計	39	11		4	22	6

※薬剤・気管＝薬剤投与と気管挿管認定 気管のみ＝気管挿管のみ認定。

薬剤のみ＝薬剤投与のみ認定、血糖・ブドウ糖＝血糖値測定及びブドウ糖投与。

7 自動体外式除細動器（AED）の配備と救急隊員の講習について

平成16年7月から、一般の市民を含む非医療従事者（医療資格を持たない消防職員等）が、心肺機能停止傷病者に対し一定の条件を満たす場合には、AEDを用いても、医師法違反とならないことになりAED講習等を受講し、全職員が使用できるようになりました。

AEDの配備は、全救急車9台（高規格救急車に半自動式除細動器9台）のほか平成20年1月から運用開始したPA（消防車と救急車）連携用及び庁舎用として全所属にAEDを配備しています。

8 応急手当普及啓発活動

「救命の連鎖」を図り、地域住民の救命率向上を図るため各種救命講習会を積極的に開催しております。

平成7年から平成30年7月31日までの救命講習会の開催及び修了証交付者の状況は、下表のとおりです。

講習会実施回数	修了証交付者数	管内人口 (H30.7.1現在)	交付者人口割合
2,687回	71,559人	106,585人	67.1%

また、平成24年度からは主に小学5年生以上を対象にした救命入門コースやeラーニング（インターネットやスマートフォン等を活用した事前学習で、相馬地方広域消防本部のホームページに掲載しています。）を活用した短時間の救命講習を開始しました。

救 急 出 場 件 数 推 移

相馬地方広域消防本部

種別 年	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
昭和47年	2		24	451	22	10	87	7	9	183	13	808
昭和48年	4		6	452	34	6	97	7	4	258	17	885
昭和49年	4		19	435	26	14	126	4	13	459	12	1,112
昭和50年			11	404	37	13	155	10	11	547	23	1,211
昭和51年	5		12	412	37	17	163	12	14	486	56	1,214
昭和52年	3		17	343	36	24	166	14	18	595	74	1,290
昭和53年	2	1	16	397	53	27	206	14	15	682	62	1,475
昭和54年	4		7	414	40	18	182	20	24	690	75	1,474
昭和55年	6		11	374	46	20	232	18	15	771	101	1,594
昭和56年	3		11	396	47	36	209	15	20	756	100	1,593
昭和57年	4	1	8	453	44	26	206	14	21	774	101	1,652
昭和58年	4		5	432	49	19	203	18	23	866	99	1,718
昭和59年	2		10	465	40	23	210	15	21	886	140	1,812
昭和60年	4	1	5	493	42	24	222	18	21	887	129	1,846
昭和61年	4		7	458	38	28	235	15	31	947	122	1,885
昭和62年	2		7	487	33	22	221	15	27	984	140	1,938
昭和63年	4		8	505	20	33	224	13	20	1,032	130	1,989
平成 1年	4	1	8	534	33	25	201	10	26	1,032	135	2,009
平成 2年	4		5	738	47	12	221	18	16	1,098	115	2,274
平成 3年	3		5	541	36	25	264	14	22	1,132	117	2,159
平成 4年	2		7	542	44	21	244	25	21	1,205	123	2,234
平成 5年	1		11	553	35	21	238	15	32	1,386	117	2,409
平成 6年	5		8	600	49	13	263	20	33	1,358	158	2,507
平成 7年	8		3	575	23	28	281	19	20	1,477	148	2,582
平成 8年	4		4	575	37	24	334	20	26	1,541	174	2,739
平成 9年	7		9	539	41	20	282	21	30	1,522	185	2,656
平成10年	2	1	9	508	35	15	315	16	44	1,698	208	2,851
平成11年	4		7	499	36	19	293	22	47	1,932	212	3,071
平成12年	3		3	536	50	19	357	22	45	1,906	256	3,197
平成13年	8		11	593	24	27	380	13	42	2,065	317	3,480
平成14年	5		7	554	28	25	397	15	49	2,126	330	3,536
平成15年	5		4	561	31	22	408	15	42	2,344	340	3,772
平成16年	3		1	516	24	29	464	20	40	2,437	373	3,907
平成17年	8	2		523	44	35	468	19	63	2,494	386	4,042
平成18年	5	1	2	474	32	25	448	22	48	2,405	390	3,852
平成19年	7		9	442	40	28	470	15	55	2,543	345	3,954
平成20年	7		7	457	33	27	443	13	62	2,379	387	3,815
平成21年	9		7	424	29	17	485	6	64	2,380	376	3,797
平成22年	4	1	3	461	37	28	524	25	53	2,557	455	4,148
平成23年	6	50		299	38	5	388	10	50	2,475	419	3,740
平成24年	1	2		343	39	18	465	19	46	2,478	385	3,796
平成25年	10		5	328	33	16	477	20	52	2,500	370	3,811
平成26年	2	2		432	55	18	532	15	54	2,730	477	4,317
平成27年	5		2	446	68	20	547	23	40	2,864	498	4,513
平成28年	3		2	399	65	22	582	13	40	3,030	444	4,600
平成29年	3		2	356	51	32	569	13	52	2,987	493	4,558

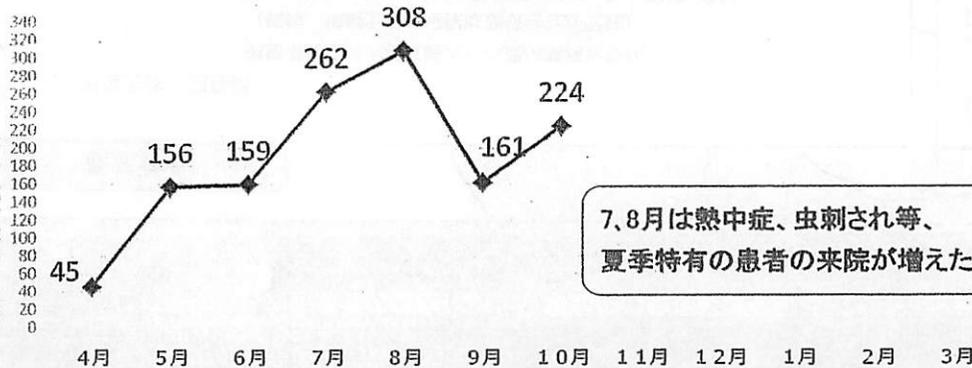
ふたば医療センター附属病院患者報告 (平成30年10月末時点)

H30.11.5 病院局

※ 本報告における平成30年10月の患者数は速報値となります。

H36年4月23日(診療開始)から10月末までの外来患者数 1,315人 (1日当たり6.8人)

月別外来患者数の推移



双葉地域の救急の状況

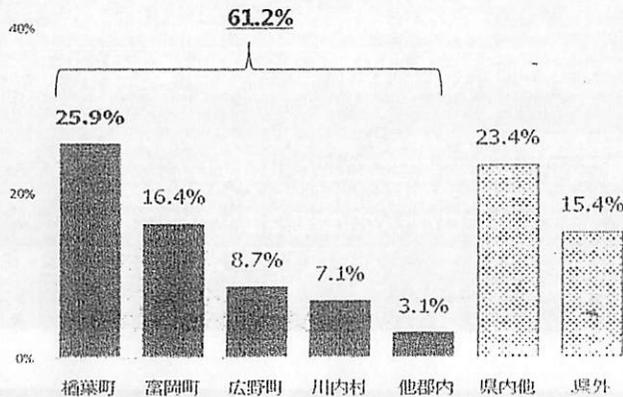
(双葉地方広域市町村圏組合消防本部)

	搬送人数 (a)	うち管内搬送 (b)	管内搬送率 (b/a)	うち当院への搬送 (c)	管内搬送中、当院への搬送率(c/b)	60分以上の搬送 (d)	60分以上の搬送率 (d/a)
H30.4.23~H30.10.31	492	266	54.1%	233	87.6%	248	50.4%
H29.1~H29.12 (通年)	711	199	28.0%	-	-	456	64.1%
H22.1~H22.12 (通年)	2,454	1,545	63.0%	-	-	685	27.9%

ふたば医療センター附属病院(24時間365日対応)の開院により、救急の管内搬送率が向上し、搬送時間が短縮された。
(搬送数は病院の集計と異なる。)

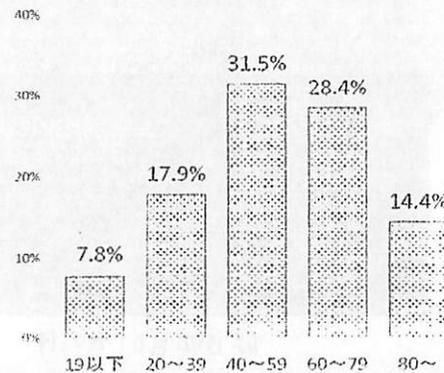
地域別患者数割合 (平成30年4~10月)

◆ 双葉郡内の町村が全体の約6割



年齢別患者数割合(平成30年4月~10月)

◆ 幅広い年齢層の患者



患者数 1,315人のうち

救急車による搬送 251人 (19.1%)

徒歩・自家用車等 1,064人 (80.9%)

症状の傾向

※平成30年10月31日現在

- 骨折、打撲、腰痛等 37.6%
- 腹痛、急性胃腸炎等の消化器系 13.7%
- 肺炎、インフルエンザ、発熱等の呼吸器系 13.1%

入院患者の状況

※平成30年10月31日現在

- 平均入院患者数 3.8人 (最大11人)
- 平均在院日数 7.6日
- 平均年齢 69.2歳

高齢者・肺炎・骨折

福島県 多目的医療用ヘリの紹介

H30年10月29日

多目的医療用ヘリとは？

- 県が新たに導入する医療用のヘリコプターです。
- ふたば医療センター附属病院が運航基地となり、双葉地域の救急現場や浜通りの医療機関を中心に運航するものです。
- このようなヘリの公立病院での導入は、全国でも例のない取組です。

多目的医療用ヘリの運航内容は？

- 双葉地域で発生した救急患者への対応
 - ⇒ ドクターヘリは、生命の危険が切迫している重症患者に対応しています。
 - 多目的医療用ヘリは、ドクターヘリの対象とならない比較的軽症の患者搬送を担当します。
- 浜通りの医療機関と高度専門的な治療が行える医療機関間の患者搬送
- 専門の医師、医療スタッフや医薬品、医療資機材の緊急搬送

多目的医療用ヘリ導入の効果は？

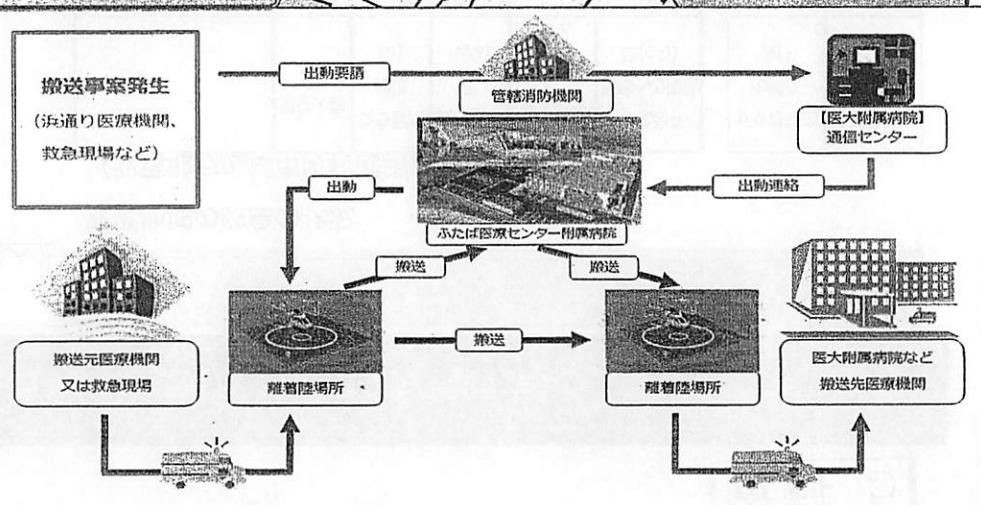
- 双葉地域での救急医療の質の向上
- 医療機関への搬送時間が短縮
 - ⇒ これにより、対象患者の重症化防止や移動中の負担軽減を図ることができます。



運航体制

- 事業主体 福島県
 - … 福島県立医科大学（医大）へ運航業務を委託（機体、操縦士等の確保は運航会社が受託）
- 基地病院 福島県ふたば医療センター附属病院（センター附属病院）
 - … 日中はセンター附属病院ヘリポートにヘリが常駐
 - 夜間は整備等のため医大附属病院格納庫にヘリを収容
- 運航管理 福島県ドクターヘリの運航と連携して行う
 - … 運航管理を行う通信センターは医大附属病院内に設置
- 搭乗人員 操縦士・整備士各1名
 - 患者、センター附属病院の医師・医療スタッフ、付添い者
- 機種 福島県ドクターヘリと同等の機種
 - … エアバス式EC135型 又は ベル式Bell429型
- 離着陸場 航空局の許可を得た県内医療機関ヘリポートやグラウンドなど

運航イメージ



平成29年搬送人員搬送地域内訳

人

管轄	県域	地域	人数	收容率	
管轄内	二次		3,758	90.7%	
	その他		57	1.4%	
	計		3,815	92.1%	
管轄外	県内	双葉・いわき	双葉		0.0%
			いわき	10	0.2%
			計	10	0.2%
		県北	福島	139	3.4%
			伊達	18	0.4%
			安達	0	0.0%
			計	157	3.8%
		県中・県南	郡山	2	0.0%
			須賀川	0	0.0%
			白河	0	0.0%
			計	2	0.0%
		会津	会津	0	0.0%
			喜多方	0	0.0%
			南会津	0	0.0%
			計	0	0.0%
		計		169	4.1%
	県外	宮城県	160	3.9%	
			329	7.9%	
	その他				0.0%
	合計			4,144	100.0%